

## 北部阿武隈地域、福島県田村市のマサ中の黒雲母変質物の分析 法科学への適用

## Analysis of altered biotite in granitic saprolite at northern Abukuma, Fukushima Prefecture - Contribution to forensic geoscience

# 杉田 律子 [1]

# Ritsuko Sugita[1]

[1] 科警研

[1] NRIPS

粗粒なマサは日本国内に広く分布しているが、マサにはカオリン鉱物が非常に多く含有されることから、従来の土砂の異同識別法では識別が難しいことがある。また、マサの形成機構は未だに未解明であるが、風化作用と共に熱水変質作用が強く関与していると考えられている。このようなマサの変質の特徴を明らかとすることを目的として、北部阿武隈地域の福島県田村市に分布するマサから採取した黒雲母変質物をX線回折によって検査した。研究地域には広くマサが分布しており、一部には少量の新鮮な花こう岩類が露出している。

黒雲母変質物は実体顕微鏡下でハンドピックによって分離し、蒸留水中で超音波を用いて表面に付着している粘土鉱物の微粒子を洗浄した。洗浄した試料はメノウ乳鉢で粉碎し、マグネシウムまたはカリウム飽和処理を行って定方位標本とした。

X線回折を行った結果、試料は24 に長周期反射を示すものと示さないものの二つのグループに分けられることが明らかとなり、その分布はそれぞれ地域的によりまとまりを見せている。また、この結果は分離した鉱物による検査が法地質学的な土砂の識別にも有効な情報を提供できる可能性があることを示唆している。